



## 新年を迎えて

署長 山田 和夫

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、ご家族お揃いで健やかにそして希望に満ちた新年を迎えられたこととお慶びを申し上げます。

今年度の岩手北部森林管理署における各業務につきましては、入札不調等により一部で事業内容の見直しや取り止め等を余儀なくされたものもありますが、全体的には無災害を継続しつつ、ほぼ予定どおりに進められ、或いは予定以上の成果を上げているものもあり、関係者の皆様並びに職員の皆様のご尽力、ご協力に対して心より感謝申し上げます。

一昨年後半から木材需要・価格が上向き傾向に転じていましたが、心配された昨年4月からの消費税率引き上げ後の反動も感じられず、緩やかではありますが、国内の木材需給率も30%台への回復が目前となるなど、森林・林業再生への取組が成果となって現れてきているのではないのでしょうか。

木材需要を巡っては、再生可能エネルギーの固定価格買取制度がスタートして、近隣各地で年間数千～十萬<sup>m<sup>3</sup></sup>強の木材を利用する大小の木質バイオマス発電所が稼働し、又はここ1～2年での稼働を目指して建設中となっていますし、合板や単板積層材（LVL）等の大規模な木材加工施設も建設されており、今後、地域材利用の拡大により、森林所有者や素材生産業者を始め、山での仕事・雇用が増え、その経済効果により山村が一層元気になり、適切な森林整備の推進にもつながることが期待されます。

国有林においては、需用者ニーズに的確に対応した木材の安定的な供給体制を確立するとともに、低コスト・高効率作業システムやコンテナ苗の普及等も通じて、森林・林業再生に向けて着実に貢献して行かなければなりません。

一方で、昨年も広島県での土砂災害、御嶽山の噴火、相次ぐ大型台風の襲来、南国四国での豪雪等々日本各地で異常気象や自然災害が猛威を振るった1年でもあったように、全国的に災害発生リスクが高まっており、防災、減災の観点から、災害に強い国土づくりに資するための森林整備をしっかりと進める必要があります。

私ども岩手北部森林管理署におきましては、「地域にとって、あって良かったと思われる森林管理署」であるという目標を職員全員で共有し、地域の声を聴きながら、また、関係者との連携を図りながら森林吸収源対策に資する間伐等の森林整備や木材安定供給、安全・安心な国土づくりのための治山事業、それらのために必要な路網整備等の各種事業を着実に推進してきました。

各事業を展開するに当たっては、行政、団体、学校、事業体等からボランティア活動も含めて様々なご支援を頂きましたが、引き続き、地域の皆様と色々な形で連携・協働しながら、地域への貢献、森林・林業再生への貢献に努めて参りたいと考えていますので、皆様方のご支援、ご協力をお願いします。

最後に、労働災害等がなく健康で明るい職場であることとともに、皆様方にとりまして幸多き年となりますようご祈念申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。



## 冬期における労働安全の確保について

次長 谷藤 忠志

今年度も降雪の時期とともに冬期事業がスタートしたところです。また、職員の皆さんにおかれましても夏期とは違い、作業時の環境の違いや通勤、移動時の車両運転の際などには一層注意を払っていただけることと思います。

岩手北部署におきましても例年と同様に「冬期事業労働災害防止対策強化期間」を昨年12月からこの1月いっぱいとし、様々な事項を実施しながら労働安全の確保に全力を尽くすこととしています。

その中でも今年は例年に比べ積雪が早いことから、通勤や作業現地への移動の際には通行する路線について雪崩の危険や路面の凍結の恐れがでてきます。対策としまして、車両運転の際は冬の交通事故防止県民運動で提唱されました「一割スピードダウン、二倍の車間距離、三分早めの出発」を心がけて頂き、交通事故の防止に努めていただきたいと思います。また、各作業の実行につきましては、足場足元の確認を始めとし、基本動作の励行により労働災害の未然防止に留意していただきたいと思います。

一方、請負事業につきましては災害の発生が多発傾向にあり、その中でも局管内では重大災害が発生するという憂うべき事態となっています。また、当署においても労働災害が発生しており、これ以上、労働災害が発生しないよう現場巡視等の機会を捉えた安全指導を継続していただきますようお願いいたします。

これから寒冷期を迎えますます作業条件も厳しくなってきますが、各自が健康管理と作業前の一呼吸を励行していただき、無災害で冬期事業期間が終えられますよう職員が一緒になり健康安全管理活動を推進して参りたいと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。

注意喚起

寒い日が続いて道路が凍結しています

朝晩の車両運転に気をつけましょう！



### 安比環境保全活動

平成26年10月26・27日「あっぴ高原遊々の森」において、安比高原ふるさと倶楽部及び八幡平市との共催による環境保全整備事業を行いました。2日間で約100名のボランティアが集まり、草地景観維持のための灌木・ササ等の刈払い・焼却作業を2日間にかけて行いました。27日にはあっぴ高原の将来と活用についての意見交換会と、馬による芝草原復元の現状報告を行い、貴重な財産である自然環境を次世代につなげていくには何が必要かを話し合いました。また、26・27日のボランティア交流会ではピアノ演奏会も行われ交流を深めました。



ボランティアの皆さんと記念写真

## コンテナ苗普及現地検討会

平成26年10月3日(金)八幡平市字御月山国有林にて、コンテナ苗普及現地検討会を開催しました。今回は、平成24年度にコンテナ苗の実証試験区を設定した箇所での開催で、林業関係者ら約40名が参加しました。試験はスギとカラマツについて、普通苗とコンテナ苗の比較、春植えと秋植え、植栽密度の比較等をしている箇所で、参加者に現地説明のあと、実際にコンテナ苗の植付けも体験しました。また、低コスト造林が期待されるコンテナ苗について現地検討・意見交換が行われました。



コンテナ苗の植付け体験

## 間伐推進現地検討会

平成26年11月18日(火)馬淵川上流流域森林・林業活性化センターとの共催で、関係者約30名の参加により、二戸市の駒ヶ嶺国有林ほかで、間伐の推進を図るための現地検討会を開催しました。今年度のテーマとして「効率的な間伐材の搬出方法」について、講師に「地域けん引型経営体である明和フォレストック(有)の安倍和明氏」を招き、民有林への列状間伐の導入、搬出間伐の推進、森林作業道作設の注意点等について、現地検討と意見交換を行いました。



列状間伐箇所での検討

## 森林共同施業団地現地検討会

平成26年11月28日(金)八幡平市及び浄安森林組合と森林整備推進協定を締結している、八幡平市田沢・曲田地域森林共同施業団地において、林業関係者ら約30名が参加し、現地検討会を開催しました。国有林、市有林、民有林についてそれぞれ路網整備・森林整備状況の説明をしたあと、現地での説明、現地検討・意見交換を行いました。

団地化したことにより路網整備が進み、森林整備が推進されることが期待されます。



現地検討と意見交換

## 米代川上流域植樹祭

平成26年10月10日(金)岩手県米代川漁業協同組合との共催で、八幡平市矢神岳国有林において、漁協関係者・田山地域住民ら約90名が参加し植樹祭を行いました。今年度の植樹箇所は10年ほど前から放牧や採草地を休止した箇所で、天然更新を活用した森林化を基本としていることから、ミズナラ(ポット苗)100本、ブナ・ミズナラ・ダケカンバの山取苗300本と、ミズナラの種子(ドングリ)約100kgを、約0.8haに植樹及び播種をしました。記念標柱の建立と、田山小学校児童による「緑の誓い」をしてもらい、米代川の源流部であるこの丑山牧野が自然の力と人間の知恵で動物が暮らす豊かな森林になることを願って植樹祭を終了しました。



参加者による植樹と播種



# 森林教室



5月から始まった『森林教室』が10月で終了しました。児童からお礼状が届き、今年度も実りある楽しい交流がたくさんありました。



## 八幡平市立 安代小学校(5年生)



- ・バイオマスエネルギー学習の一環で、下刈り・薪割り体験しました。初めて鎌と斧を手にした児童でしたが、上手に草を刈り、薪を割る事が出来ました。(8月26日“あっぴ高原遊々の森”)
- ・前回刈り取った草を焼き、馬とのふれあいで、『かわいい』とテンションが上がるものの、おそろおそろな姿にほほえましさを感じました。(9月29日“あっぴ高原遊々の森”)

## 八幡平市立 田山小学校(5・6年生)



- ・今年は天候に恵まれ予定通り四角岳に登る事が出来ました。二酸化炭素吸収実験、標高による植物の違いなどを学びながら自然にふれあいました。(9月26日“四角岳登山”)
- ・風の強く寒かった日でしたが、一生懸命苗木を植えてくれました。(10月10日“植樹祭”)

## 八幡平市立 松野小学校(1・2年生)



- ・クイズ形式で小動物や昆虫などの写真を見て、生態系の学習をしました(8月27日“松野小学校”)
- ・ウォッチングビンゴゲームをしながら植物や生き物の観察をしました。(9月3日“あっぴ高原遊々の森”)





### 二戸市立 浄法寺小学校(3年生)



・予定していた日に雨が降り、延期になりましたが当日天気にも恵まれ稲庭岳を散策しながらの植物観察とネイチャーゲームにより盛り上がりました。(9月3日“稲庭岳ハイキング”)

### いちのへ子ども教室



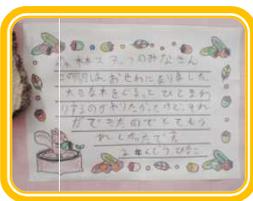
・一戸町教育委員会から今年度初めて依頼をいただき、小鳥谷小学校の児童23名を対象に行いました。施設近くの山林にてウォッチングビンゴゲームを楽しみながら森林の役割を学習しました。(9月24日)

### 八幡平市立 安代中学校

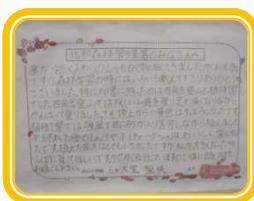


・今年度初めて依頼をいただき、学校林『ふれあいの森』の保育に係る事前学習として森林の役割や道具の扱い方など学びました。(8月29日)

#### 松野小学校1・2年生



#### 田山小学校5・6年生



# 我が署の香しき住人達



主任森林整備官 有本 実

生物多様性の保全を声高に叫ぶ方々、質問です！あの身近すぎる生物を、正確な名前すら知らないままに、無慈悲な殺生を繰り返していませんか？新年早々物騒な書き出しで恐縮ですが、今回の主役は誰もが嫌うあのカメムシ達です。

毎年晩秋に、どこからともなく署内にカメムシが侵入してきます。一体彼らはいつ頃から集まり始めて集結するピークはいつなのか、そして何種くらい見られるのか・・・色々な疑問が湧き上がり、署で内業している時に好奇心に任せて密かに調べてみました。

調査法(?)はいたって単純です。10時と15時の「林業体操」の時間に、気分転換がてら外に出て署の周りを一周(約70m)し、署の外壁(高さ約2m)と外壁から約2mの範囲の地面にいるカメムシの種名と個体数を記録していきます。2014年9月1日から11月27日まで、悪天候時以外はこの1日わずか数分の観察を続けてみました。

延べ34日に渡る調査の結果、未同定種を含めて合計8科26種205個体と、想像以上に多種多様なカメムシが確認されました(表1)。今回記録した生データは岩手北部署HP上に掲載しますので、もし「うちの署と比較したい」「経年変化を調べて温暖化との関係を探りたい」などという奇特な方がおりましたら、どうぞご活用下さい。それではまず今回確認できたカメムシの一部を、写真とともにご紹介します。

個体数第1位はクサギカメムシ(写真①、()内は体長、以下『カメムシ』省略)でした。臭いから「臭気亀虫」ではなく、植物のクサギを好んで吸汁するから「臭木亀虫」というのが名前の由来です。続く第2位のヨツモン(②)は、春～夏の間はどこにいるのか分からない不思議な種で、私も秋季以外では今までに一度しか見たことがありません。第3位のスコット(③)は山地性で、安比高原のブナの駅に沢山集まります。イギリスのカメムシ学者スコットさんが発見した種で、学名も可愛く *scotti* (スコッティ) です。これら上位優占3種で、全確認個体数の約72%にも達しました。署内に侵入してくるのもほとんどこの3種に限られます。おそらく皆さんにも顔なじみの嫌われ者でしょう。

確認種中最強の臭気を誇ったのが、体もいかついオオヘリ(④)です。久々に嗅いでみましたが、鼻が曲がるとはこの事かと言わんばかりの激烈な刺激臭で、スコットなど爽やかな香水

表1. 2014年9月～11月に岩手北部署で確認されたカメムシ

科名	種名	個体数
カスミカメムシ科	カスミカメムシ科 sp.1	1
	カスミカメムシ科 sp.2	1
カメムシ科	アオクチブトカメムシ	3
	イシハラカメムシ	1
	エゾアオカメムシ	2
	クサギカメムシ	58
	スコットカメムシ	35
	ツノアオカメムシ	7
	ツマジロカメムシ	2
	トゲカメムシ	1
	トホシカメムシ	2
ヨツボシカメムシ	1	
クヌギカメムシ	ヨツモンカメムシ	55
サシガメ科	オオトビサシガメ	8
	ハネナシサシガメ	2
ツノカメムシ科	ツノアカツノカメムシ	3
	ヒメツノカメムシ	3
	フトハサミツノカメムシ	1
	ベニモンツノカメムシ	8
ナガカメムシ科	セスジナガカメムシ	1
	ナガカメムシ科 sp.	1
ヘリカメムシ科	オオツマキヘリカメムシ	4
	オオヘリカメムシ	1
	キバラヘリカメムシ	1
	ハラヒロヘリカメムシ	1
ホシカメムシ科	クロホシカメムシ	2
個体数合計		205
種数合計		26

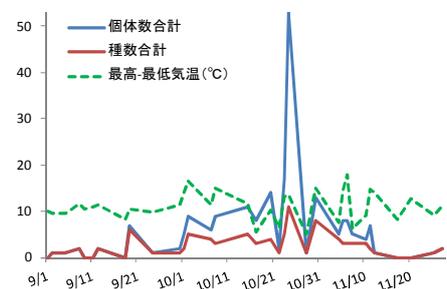


図1. 9～11月のカメムシの種数・個体数変動

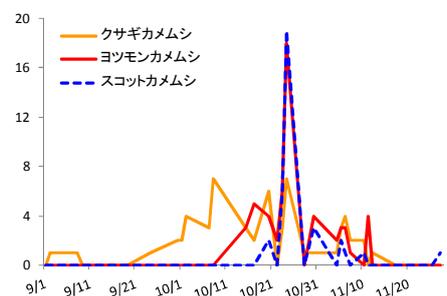


図2. 上位優占3種の個体数変動

に感じられるほどです。興味ある方、見つけたら眠気覚ましにどうぞ。

まるで革細工の様なトホシ(⑤)、緑色に輝く大型美麗種のツノアオ(⑥)・アオクチブト(⑦)は山地性で、署の背後に林が迫っているとは言えここで見られるとは意外でした。アオクチブトは肉食性で、人間にとってはガ類の幼虫等を捕食してくれる益虫です。

オオトビサシガメ(⑧)、ハネナシサシガメ(⑨)も肉食性で、害虫の大発生をコントロールしてくれる良い連中です。一概にカメムシを嫌うのは止めましょう！ところでこのハネナシサシガメ、その名の通り成虫でも羽が無いのが最大の特徴ですが、面白いことにごく稀に羽が生えた「有翅型」が出現します(⑩:2014年9月27日、葛根田地熱発電所付近で撮影)。署で見つけた2匹はともに羽が無い通常型でしたが、何の拍子で有翅型が羽化するのか、いつか累代飼育をして理由を探りたいものです。

続いては確認種数・個体数の推移を見てみましょう(図1)。9月2日から数匹ずつ確認していましたが、10月に入ると増加傾向が見られ、種数・個体数ともに最大のピークは10月24日で合計11種53個体を記録しました。11月に入ると徐々に減少し、11月27日にはスコットとヒメツノを1匹ずつ確認して本調査を終了しました。

そしておなじみ上位優占3種は、集結時期にズレがあることも判りました(図2)。まず一番にクサギが出現し、それより1ヶ月以上遅れてようやくヨツモンが現れ、さらに遅れてスコットが出だしたな、と思ったら10月24日、ヨツモン18匹にスコット19匹と爆発的に増加しました。署の外壁をウジャウジャと歩き回る様は、人によっては恐怖感を覚える圧巻の光景でした。

では一体何が引き金となって彼らは越冬場所を捜し求め、署に集まり始めるのでしょうか。署の最寄りのアメダス「荒屋」の気象観測データと確認種数・個体数とを色々比較検討してみました。気温・降水量・風速・日照時間ともに有意な相関関係は認められませんでした。もしかしたら徐々に短くなる日長を感知しているのかもしれませんが。有意ではないものの、最も関係がありそうだったのが最高気温と最低気温の温度差です。図1に緑色の破線で示していますが、特に10月中旬から下旬にかけて、種数・個体数の増減と同調している傾向がうかがえます。晩秋の気温差が大きい日にカメムシが沢山集まる…そういうば、と思ひ当たる節はありませんか？

10月半ば、明日は紅葉狩り行こう、などとテレビで天気予報をチェックする時、よく聞いてみて下さい。お天気キャスターが「明日は移動性の高気圧に覆われ広く晴れ間が広がり、行楽日和となるでしょう。朝は放射冷却で冷え込みが強まりそうです。」



①クサギカメムシ(16mm)



②ヨツモンカメムシ(14mm)



③スコットカメムシ(10mm)



④オオヘリカメムシ(23mm)



⑤トホシカメムシ(20mm)

などという典型的なフレーズを言い放ったときが、『1日の気温差大＝カメムシ注意報発令』と見なせそうです。そういえば10月24日も、移動性高気圧圏下の爽やかな秋晴れでした。…予報通り快晴となった翌朝。そうだ、外に干しておいた洗濯物を取り込んで布団を干してから出かけよう…さあその後の阿鼻叫喚の修羅場たるや、皆さん経験済みでは？

どうすれば奴らを防げるんだ有本！と毎年秋には必ず質問されます。私の回答は唯一つ、「気にしないこと」。ここは生物多様性のホットスポット・日本だし、と開き直って共存するのです。などと書くとここまで読み進めていただいた方に申し訳ないので、少々調べてみたところ、ベニヤ板を用いた簡便な『隙間トラップ』でクサギを捕獲し潜伏消長を調べる、という面白い論文を見つけました(渡辺ら、1994\*)。ここで詳述はしませんが、わずか1シーズンで数千匹を集めたこのトラップの威力は絶大です。興味のある方は、CiNii等の論文検索サイトでご覧下さい。国有林の間伐材を使ったベニヤ板でカメムシトラップを作成するのもまた一興でしょう。

\* 渡辺護, 荒川良, 品川保弘, 岡沢孝雄(1994):クサギカメムシの家屋などへの越冬飛来消長. 衛生動物45(1):25-31.

カメムシは日本から1300種以上も記録されており、まだまだ新種が見つかる可能性を秘めた、れっきとした宇宙船地球号の一員です。臭くない種もいれば害虫を駆逐してくれる種、歩く宝石と称されるキンカメムシの仲間など、生態・形態ともに極めて多様性に富んだ魅力あふれる種群です。アメンボやミズカマキリが水生のカメムシの仲間だと言うと、驚かれる方も多いでしょう。皆さん、侵入してきたカメムシを条件反射のようにガムテープでペタリと捕殺する前に、今一度じっくり観賞して時にはそっと外に放してあげるような、共存の道を探ろうではありませんか。

…以上、ただ今冬眠中の「香しき住人達」の寝言でした。



調査中の一コマ。画面左のスロープはカメムシの好ポイントでした。



⑥ツノアオカメムシ(21mm)



⑦アオクチボトカメムシ(21mm)



⑧オオトビサシガメ(24mm)



⑨ハネナシサシガメ(17mm)



⑩ハネナシサシガメ(有翅型)